

千葉市感染症発生動向調査情報

2018年 第15週 (4/9-4/15) の発生は？

1 定点報告対象疾患(五類感染症)

報告のあった定点数	15週	14週	13週	12週
小児科	18	18	18	18
眼科	5	5	5	5
インフルエンザ	28	28	28	28
基幹定点	1	1	1	1

上段:患者数
下段:定点当たりの患者数

「定点当たりの患者数」とは
報告患者数/報告定点数。

定点	感染症名	千葉市					千葉県
		注意報	4/9-4/15	4/2-4/8	3/26-4/1	3/19-3/25	4/2-4/8
			15週	14週	13週	12週	14週
小児科	RSウイルス感染症		5 0.28	6 0.33	2 0.11	1 0.06	32 0.24
	咽頭結膜熱	○	2 0.11	1 0.06	1 0.06	0 0.00	43 0.33
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	○	43 2.39	32 1.78	30 1.67	36 2.00	260 1.98
	感染性胃腸炎		68 3.78	79 4.39	69 3.83	81 4.50	436 3.33
	水痘		12 0.67	4 0.22	2 0.11	3 0.17	56 0.43
	手足口病		1 0.06	2 0.11	0 0.00	1 0.06	9 0.07
	伝染性紅斑		2 0.11	0 0.00	2 0.11	1 0.06	12 0.09
	突発性発しん	○	13 0.72	8 0.44	4 0.22	3 0.17	55 0.42
	ヘルパンギーナ		2 0.11	2 0.11	1 0.06	0 0.00	5 0.04
	流行性耳下腺炎		1 0.06	1 0.06	3 0.17	3 0.17	11 0.08
インフル	インフルエンザ(高病原性鳥インフルエンザを除く)		18 0.64	23 0.82	42 1.50	94 3.36	182 0.87
眼科	急性出血性結膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	流行性角結膜炎		1 0.20	2 0.40	1 0.20	0 0.00	25 0.71
基幹定点	細菌性髄膜炎(髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	無菌性髄膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	マイコプラズマ肺炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	クラミジア肺炎(オウム病を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)		1 1.00	0 0.00	1 1.00	0 0.00	2 0.22

★★:流行中 ★:やや流行中 ◎:増加 ○:やや増加 →:変化なし ↓:やや減少 ↓↓:減少

2 全数報告対象疾患(4件)

病名	性	年齢層	診断(検査)方法	病名	性	年齢層	診断(検査)方法
結核	男性	40歳代	病原体等の検出	梅毒	男性	30歳代	血清抗体の検出
結核	男性	50歳代	病原体等の検出	梅毒	男性	40歳代	血清抗体の検出

・第15週は、結核2件(58)、梅毒2件(7)の報告があった。

※ ()内は2018年の累積件数。但し、累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

定点当たり報告数 第15週のコメント

<咽頭結膜熱> 前週より増加し0.11となった。過去10年の同時期と比べるとやや少なめ。例年の発生動向によると今後増加する傾向にある。

<A群溶血性レンサ球菌咽頭炎> 前週より増加し2.39となった。過去10年の同時期と比べると多め。

<突発性発しん> 第13週から急増し、第15週は0.72となった。過去10年の同時期と比べるとやや少なめ。

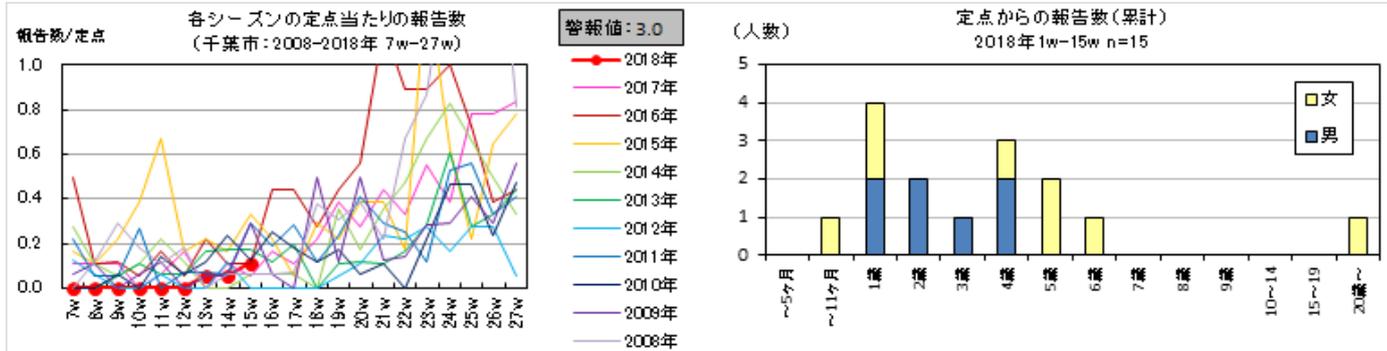
■ トピック ■

＜咽頭結膜熱＞

全国レベルの第14週は、過去10年の同時期と比べるとやや少なめとなっています。都道府県別では鹿児島県、福井県、新潟県の順で多く報告されています。千葉県は全国レベルと多めとなっています。千葉市では第13週から連続して増加しており第15週は0.11となりました。過去10年の同時期と比べると少なめとなっています。例年の発生動向によると今後増加する傾向にあります。

区別の発生状況は、若葉区(1.0/定点)の1歳及び6歳で発生報告がありました。

2018年第1週から第15週までの累積報告数(n=15)によると、性別では男性が46.7%(7名)、女性が53.5%(8名)で、年齢階級別では1歳(26.7%:4名)、4歳(20.0%:3名)、2歳及び6歳(共に13.3%:2名)の順で多くなっています。

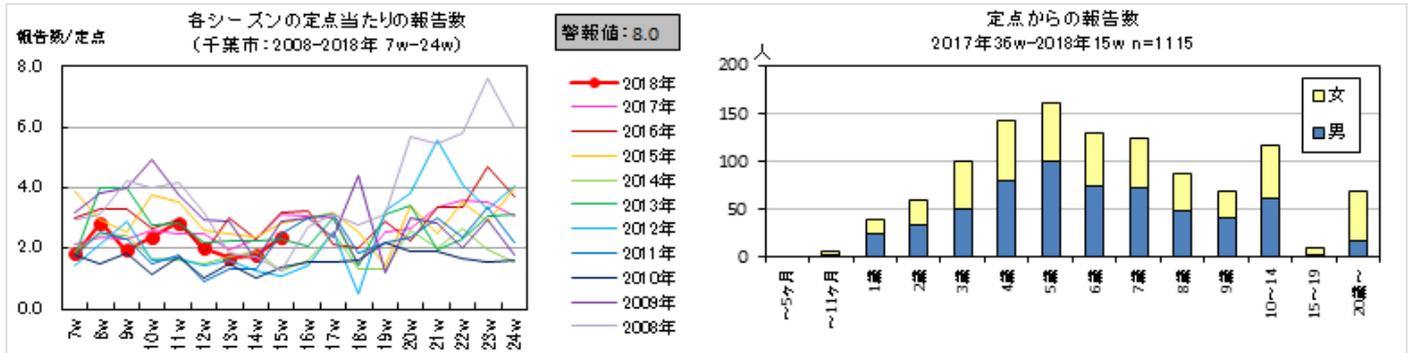


＜A群溶血性レンサ球菌咽頭炎＞

全国レベルの第14週は、過去10年の同時期と比べるとやや多めとなっています。都道府県別では鳥取県、福井県、石川県の順で多く報告されています。千葉県はほぼ全国レベルと同等となっています。千葉市の第15週は前週より増加し2.39となり、過去10年の同時期と比べると多めとなっています。

区別の発生状況は、緑区(5.5/定点)で最多で、同区の4歳で最も多く発生報告がありました。

今シーズンである2017年第36週から2018年第15週までの累積報告数(n=1115)によると、性別では男性が54.7%(610名)、女性が45.3%(505名)で、年齢階級別では5歳(14.5%:162名)、4歳(12.7%:142名)、6歳(11.7%:130名)の順で多くなっています。



＜突発性発しん＞

全国レベルの第14週は、過去10年の同時期と比べると少ないレベルとなっています。都道府県別では宮崎県、佐賀県、大分県の順で多く報告されています。千葉県はほぼ全国レベルと同等となっています。千葉市では第13週から急増しており、第15週は0.72となり、過去10年の同時期と比べると平均レベルまで近づきました。

区別の発生状況は、花見川区及び緑区(共に1.5/定点)で最多で、花見川区が2歳、緑区が1歳で最も多く発生報告がありました。

2018年第1週から第15週までの累積報告数(n=98)によると、性別では男性が51.0%(50名)、女性が49.0%(48名)で、年齢階級別では1歳(62.2%:61名)、6～11か月(19.4%:19名)、2歳(12.2%:12名)の順で多くなっています。

